

第1回 福山市小中一貫教育推進懇話会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

皆様方には、日ごろより本市学校教育推進のために、ご協力いただいておりますこと、誠に感謝申し上げます。また、この度は、小中一貫教育検討委員への就任を、快くお引き受けいただき、ありがとうございました。

本市教育委員会では、本年度から「義務教育9年間を一体的に捉えた教育活動の展開をめざす小中一貫教育の創造」に、3年後の2015年（平成27年）からの全面実施をめざして、取り組み始めたところです。

小中一貫教育に取り組む理由は、一言で申し上げますと「子どもたちに確かな学力をつけ、変化の激しい社会をたくましく生きる力を育む」ためであります。今、日本は人口減少化、少子高齢化が急速に進み、税収や労働力の減少、社会保障費の増加など将来的な社会不安が予測されております。また、子どもたちを取り巻く環境においても、家庭の教育力の低下、メディアの発達による情報過多、地域での安心・安全の確保の必要性など、子どもたちの成長を阻害する要因が見られます。このような環境で育つ、子どもたちには、学力や学ぶ意欲の低下、基本的生活習慣の乱れや規範意識やコミュニケーション力の欠如、体力の低下など様々な課題が現れております。

国では、このような状況を踏まえ、この間の教育改革において、制定から60年を経過した教育基本法や学校教育法の改正、学習指導要領の改訂を行い、「変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知徳体をバランスよく育てることが大切である」・「子どもたちの生きる力をいっそう育むことが重要である」とされました。

本市が抱える将来的な課題、子どもたちの現状も、国と同じような状況にあります。後ほど、子どもたちの現状につきましては詳しくご説明いたします。本市では、これまで学校教育ビジョンⅢにおいて、小中が連携する中で様々な課題の克服をめざして取り組んでまいりました。しかし、学力に係る課題の固定化や暴力行為・不登校の低年齢化などの課題が残されており、それらが、小学校から中学校にかけて増加する中1ギャップと呼ばれ

る状況も存在します。この中 1 ギャップについては、国において、「子どもたちの発達において、約 60 年前のある学年の身長体重の平均値が、現在の 2～3 年前の学年の平均値に相当し、子どもの身体的発達が早まっている。」「暴力行為の加害児童生徒数、いじめの認知件数及び不登校児童生徒数は中学校 1 年生段階で急増し、中学校での学習や生活への不適応が見られる。」という調査結果も報告されています。

そこで本市では、これらの小中のギャップなどの課題を解消し、子どもたちに「確かな学力・変化の激しい社会をたくましく生きる力」を育むため、これまでの小中連携を更に強め、義務教育 9 年間を一体的に捉えた教育活動を展開する「小中一貫教育」に取り組むことにいたしました。2 月に策定した、これから 5 年間の本市学校教育の指針となる、お手元の福山市学校教育ビジョンⅣにおいては、その中心に「小中一貫教育の創造」を位置づけております。

この懇話会は、本日お集まりいただいております、地域団体や学校関係者、大学、産業界の皆さま方から、小中一貫教育の基本方針や推進方策などについて、幅広くご意見をいただくために、立ち上げさせていただきました。この後、事務局からの本市学校教育の現状説明の後、それぞれのお立場で日頃より、感じたり考えたりしておられる「子どもたちの課題」や「子どもたちに必要な力・望む姿」について率直なご意見を頂ければと思います。その後、会を重ねる中で、「本市学校教育のあるべき姿」「福山市小中一貫教育のあり方」といったテーマで協議を継続していきたいと考えております。

すでに、各中学校区では、それぞれの課題に応じてできるところから取り組みを始めておりますが、まだ 3 年間の準備期間中であります。皆さまから頂いたご意見を、計画の改善や各校区の実践の参考にさせて頂きつつ全面実施に備えていきたいと考えております。

各方面でご多用の皆さま方には、ご負担をおかけすることもあると思いますが、本会の趣旨をご理解頂き、本市小中一貫教育の推進にお力添え頂くことをお願いし、開会のご挨拶とさせていただきます。